

## 北星まちづくり推進協議会 会議録 令和3年度 第1回

会議概要	
日時	令和3年8月3日(火曜日) 午後6時30分から午後7時45分まで
場所	旭川市北星公民館 講堂
出席者	委員（11名、正副会長以外は50音順） 千野会長、中村副会長、青塚委員、小笠原委員、金丸委員、工藤委員、佐藤委員、竹内委員、藤崎委員、松本委員、矢三委員 (欠席者 有田委員、井上委員、榎本委員、斉藤委員、土井委員、三上委員、村田委員、森委員) 事務局 市民生活部 林部長 地域まちづくり課 今課長、谷口主査、吉岡 北星公民館 佐藤館長
会議の公開・非公開	公開
傍聴者の数	0名
会議資料	次第
	資料1 北星まちづくり推進協議会委員名簿(令和3年5月11日現在)
	資料2 令和3年度 北星まちづくり推進協議会 開催イメージ
	資料3 北星地域の取組について
	資料4 実行委員会振分名簿

### 議事の内容

※「北星まちづくり推進協議会」について、本文では「まち協」と略する。

#### 1 開会

開会し、欠席委員の報告、配付資料の確認を行った。

## 2 新任委員の紹介

新任委員から就任の挨拶があった。

## 3 市民生活部長あいさつ

市民生活部長から各委員に対して挨拶があった。

## 4 北星地域のまちづくりの検討と推進について

### (1) 年間スケジュールについて

事務局から資料2に基づき説明を受けた。

### (2) 昨年度の振り返りと今年度の取組について

会長(北星6地区・教育大学連携事業実行委員会 委員長)、副会長(北星6地区防災事業実行委員会 委員長、北星まちづくり地域福祉ネットワーク 委員長)から昨年度の取組について報告を受けた。

その後、各委員から資料3に基づき今年度の取組について発表を行い、今後取り組みたいこと等について意見交換を行った。

主な意見等は次の通り。

- ・児童センターではコロナで1年間思うような活動が出来なかったが、今年は地域活動をメインにした活動の継続を検討している。
- ・今年は菜園で食べものを作っても子どもたちと食べるのは難しいため、腐葉土を活用してひょうたんを作っている。教育大学の小泉先生のアドバイスのもと、出来たひょうたんで民芸品を作る予定なので、皆さんにも披露したいと考えている。
- ・地域の高齢者世帯のチェックを行いたい。旭星地区の女性防火クラブでは、毎年夏に消防本部から委託を受けてほのぼの訪問を実施し、75歳以上の高齢者、高齢者夫婦、一人暮らしの高齢者等を対象に、火の用心、安心見守りを兼ねてチェックしている。

しかし、エリア内でもチェックされていない方がいたり、町内会に未加入の方や、マンション、アパート等の移動が多かったりと、変化がつかめない部分がある。

- ・今年防災フェアの開催が難しいと思うので、地域をしっかりと守っていくために、高齢者にとって危険な場所などを掲載した地図を町内会単位などのエリアごとに作ったり、高齢者世帯のチェックによる状況把握、情報共有をしながら安心安全のまちづくりにつなげたい。
- ・町内会の加入率には地域差があり、マンション等は加入している人が少ない。中には高齢者もあり、そういった方たちの安全を守る取組は大事なことだと思う。
- ・学校も地域の中にあり、子どもたちが地域の中から学ぶ機会は貴重である。腐葉土づくりや草木染めなど、地域の自然を活用しながら地域の方と触れ合える場を作っていただくことはありがたい。
- ・コロナで子どもたちも学校の中に閉じこもり、地域とのつながりという意識が薄くなってきている。今年も3年生の総合的な学習の計画に位置づけさせていただいているので、2学期以降、通常の状態に戻ることができれば、ぜひ参加させていただきたい。
- ・自主防災組織をつくりたい。私の町内会では役員を中心にやらざるを得ないが、役員も忙しく、十分な活動が出来ていない。やりたいことがあると思いつつ、なかなか声をあげられなかった。
- ・防災フェアはコロナ以前に参加してよかったが、町内会での参加希望者がなかなか集まらない。参加者をどう増やすか、新しい人をどう参加させるかが非常に難しいと考える。
- ・昨年度は腐葉土づくりの取組に参加させてもらったが、この取組を2、3年で終わらせず、腐葉土をどのように活かし、どのように地域に還元していくかという活動を今後、継続して進めていけばよいのではないかと考える。
- ・市の公園みどり課で腐葉土づくりを行っているが税金もかかるので、6地区に腐葉土をつくる場所を設けて、地域の落ち葉を持ち寄り、各地域で腐葉土をつくる取組が出来ないかと考える。
- ・新たな取組として地域ごとにフリーマーケットを行ってはどうか。  
家庭の不要物を必要な人に安価で販売する。そういう場が地域のコミュニティの場所になっていくのではないかと考える。今回は北星、次は近文と6地区で開催したり、大人の管轄下で不要なおもちゃを集めるなど、子どものフリーマーケットは子どもたちの社会勉強にもなると思う。

- ・今後、全市的に学校の施設開放を行っていただきたい。  
市でも体育館は解放しているが、教室を借りることは出来ないだろうか。  
北星地域の社会福祉協議会では活動場所がなく、地域の中に市民活動をする場所がない。  
公民館で色々なサークルが活動しているが、小中学校の音楽室を借りて活動が出来るようにするなど、私的な団体でも制限を設けつつ開放しても良いのではないか。  
小さな町村では、地域の方に解放等行っている所もある。旭川市の規模だと規則等あるだろうが、それによって世代間交流等が可能になるのではないか。
- ・各地区でフリーマーケットを開催すれば色々なものが活用でき、交流もより広がるのではないか。今後につなげていきたいと考える。
- ・学校開放については、もっと広く多くの学校が対応できないものかと思う。そうすれば世代間交流が全市的により広がるのではないか。
- ・災害時にどうやって目的地まで行くのか、どのくらい時間がかかるのか、経路に障害物があるのか、私もわかっていないし、きっと周りの方もよくわかっていないと思われる。地域の高齢者を支えていく上で、ハザードマップを使ってどこに、どのように逃げたらいいのか実際に避難経路を歩いてみるのも一つの方法かと思う。
- ・仕事柄、お年寄りと接することが多いが、コロナ禍のため訪問ができず、お元気ですか、ちゃんとお飯を食べていますか等、時々お電話で話を聞いている。現在、コロナ禍で家に引きこもっている方も多いので、安心できる時期になったら地域の活動として、お年寄りを原っぱみたいな所で集まってお喋りさせてあげるのも元気になれる方法の一つかと思う。
- ・その時にハザードマップを利用し、説明したほうがお年寄りにはよくわかるのではないか。今年はそのことに挑戦してみたい。
- ・昨年度までに防災マップ、福祉のまち通信を発行したり、腐葉土が出来上がったが、これらをどう活用していくかを考えた。
- ・防災マップについては、地域の危険箇所をさらに見える化してはどうか。看板の設置、避難場所の明示、防災フェアの開催でも良いと思う。災害をわかりやすく伝えるためのビデオを撮影し、Youtube等にアップロードして多くの方が見られるようにするなどの活動につなげてはどうか。

- ・福祉のまち通信については、法律相談は弁護士会、相続の話は司法書士会など、福祉や病気の相談から更に一歩進んだ窓口があることを周知しても良いのではないかと思います。
- ・地域相談会のようなものを定期的で開催し、困った時にはここへ行けば良い、あらゆる福祉に関して相談できるということを地域住民に向け、世代に関わらず周知していくことも必要かと思う。
- ・連携事業については、いかに子どもたちを巻き込むかを考えてはどうか。児童センターでひょうたんを育てているのは初めて聞いたが、教育大も協力してくださっているので、子どもをテーマに腐葉土をどのように活用するかを考え、地域に還元できれば良いと思う。
- ・防災と福祉のマップを2つ作成したが、1回きりではなく次のステップに継続していきたいと考える。今後、実行委員会の方だけではなく、参加者を増やしながら頑張っていきたい。
- ・心の通う地域になるようなご提案をいただき、すごく良いことだと思った。スムーズに行くよう意見をまとめなくてはならないと思うが、交流を図りながら絆を増やし、今後のまちづくりに還元していきたい。
- ・連携事業では昨年度、教育大生、児童センターや大有小の子どもたち、実行委員の方、地域の方たちと一堂に会しての落葉拾いを行った。一昨年は児童センターで保護者の方も含め皆で食べ物を作る等、本当に良い交流が出来た。今回皆さんからいただいた意見は、実行委員会で更に交流が深まるような活動を検討するために活用させていただきたい。

今回発表のあった意見等は、今後の取組に活かすため各実行委員会に報告することとし、引き続き意見交換等、検討を進めることとした。

### 3 その他

事務局から次の2点について説明を受けた。

- 1 次回開催予定について
- 2 地域まちづくり推進協議会パネル展の開催について

### 4 閉会